１）－９　古津波調査に基づく環太平洋巨大地震の津波高確率予測

（研究期間 平成 21～24 年度）

［担当者］　藤井雄士郎　＜研究分担者＞

本課題（研究代表者：佐竹健治／東京大学地震研究所教授）では，(1) 環太平洋やインド洋で行われている津波堆積物などの調査結果に基づき，過去数千年間の巨大地震・津波の発生履歴をまとめ，将来の発生確率を推定し，(2) 最近の津波記録のインバージョンによる断層モデルやアスペリティ分布を参考に，将来の津波についてシミュレーションを行い，日本沿岸における津波高さとその頻度の関係をまとめ，遠地津波の津波高を確率論的に予測することを目的としている．

平成 24 年度は，1960 年及び 2010 年のチリ地震と 2010 年メンタワイ諸島地震の津波波源に関する研究成果が，国際誌 PAGEOPH の特集号にそれぞれ受理・掲載された．また，2011 年東北地方太平洋沖地震の津波波源モデルを改良するために実施したマルチタイムウィンドウ津波波形インバージョンについて，地球惑星連合大会と地震学会で発表した．その研究成果をまとめた論文が国際誌 BSSA の特集号に受理された．